

海底土中の Pu 分析結果

1. 測定結果：

(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所	採取日	Pu-238	Pu-239+Pu-240
福島第一 5,6号機放水口北側	平成24年3月1日	N. D. [$<2.3 \times 10^{-2}$]	$(7.9 \pm 1.3) \times 10^{-2}$
福島第一 南放水口付近		N. D. [$<3.2 \times 10^{-2}$]	$(1.2 \pm 0.19) \times 10^{-1}$
福島第一及び福島第二付近の近海における過去の測定値の範囲(平成11年度～平成20年度) ^{※1}		—	$1.7 \times 10^{-1} \sim 5.6 \times 10^{-1}$
国内における過去の測定値の範囲(平成18年度～平成22年度) ^{※2}		N. D. $\sim 6 \times 10^{-2}$	—

[]内は検出限界値を示す

※1：出典「平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」(福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会)

※2：出典「環境放射線データベース」(文部科学省)

2. 分析機関：株式会社 化研

3. 評価

平成24年3月1日に検出されたPu-239+Pu-240の濃度は、福島第一及び福島第二付近の近海における過去の測定値と同程度であることから、今回の事故に由来するものとは判断できない。

以上

海底土核種分析結果

採取場所	福島第一 5,6号機放水口北側	福島第一 南放水口付近
試料採取日	平成24年5月14日	平成24年5月14日
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/kg・乾土)	
I-131 (約8日)	ND	ND
Cs-134 (約2年)	450	890
Cs-137 (約30年)	640	1,300
Sr-89 (約51日)	ND	ND
Sr-90 (約29年)	ND	4.3
福島第一及び福島第二付近の近海におけるSr-90の過去の測定値の範囲（平成11年度～平成20年度）：ND～0.17 Bq/kg・乾土 出典「平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」（福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会）		

試料濃度が「 - 」とは、測定対象外を示す。

I-131, Cs-134, Cs-137については、7月13日公表。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。検出限界値は次のとおり。

I-131が約15Bq/kg・乾土, Sr-89が約4Bq/kg・乾土, Sr-90が約2Bq/kg・乾土。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

Sr-89, Sr-90の分析は株式会社 化研にて実施。

（評価）

検出されたSr-90の濃度は、平常時の福島第一及び福島第二付近の近海における測定値の範囲を上回っており、今回の事故に由来するものと考えられる。